

①伊藤博文寄進の燈籠

No.33でご紹介した楠木正成戦没之地の敷地内には寄進された燈籠が見られます。

明治2年(1869)4月に兵庫県知事を辞職した伊藤博文が、同年9月、楠公墓前に寄進した1メートルほどの石燈籠があります。

大正4年(1915)9月、その燈籠の下に石台が築かれました。その石台には伊藤博文と親交の深かった実業家 神田兵右衛門が説明文を刻んでいます。



大蔵少輔従五位兼民部少輔
越智宿禰博文

神田兵右衛門



明治初年の頃の
伊藤俊輔(博文)

②江藤新平寄進の燈籠

明治6年(1873)9月、佐賀藩出身の江藤新平が寄進した燈籠です。



江藤新平

江藤新平

天保5年(1834)2月9日、江藤新平は江藤助右衛門胤光の長男として生まれました。16歳の時、佐賀藩の藩校 弘道館に入り学問を学びます。藩主鍋島直正の佐幕政策、および新平らの意見を取り入れないことに反感を持ち、文久2年(1862)6月27日脱藩します。京都で桂 小五郎と面会し、見識を広げました。江藤は公卿の攘夷論に失望し帰国します。江藤が提出した「京都見聞」を鍋島直正が評価し、死罪を免れ永蟄居となりました。罪が許され表舞台で活躍するのは慶応3年12月以降です。江戸城が無血開城になると、江藤は城内の文書類(特に政治関連の書物)を接收します。江藤は、彰義隊征伐(上野戦争)で長州藩の大村益次郎とともに討伐を主張し、軍監として戦い功績を挙げました。明治新政府に登用され、明治5年(1872)、司法卿、参議と数々の役職を歴任します。その間に学制の基礎固め、四民平等、警察制度整備など近代化政策を推進、特に司法制度の整備(司法職務制定・裁判所建設・民法編纂・国法編纂など)に功績を残しました。征韓論問題等の「明治6年の政変」で西郷隆盛・板垣退助・後藤象二郎・副島種臣と共に下野します。その後、副島、後藤らの説得にもかかわらず、明治8年(1875)2月に佐賀へ帰郷します。帰郷後、憂国党の島義勇とともに首領として擁立され、武装蜂起して士族反乱である佐賀の乱が起り、すぐに鎮圧されます。江藤の政敵 大久保利通は、全権(行政権・軍事権・司法権)を委任され、江藤の裁断の場に自ら赴き、士族を剥奪のうで処刑しさらし首に処す、という判決を指示します。辞世「ただ皇天后土の わが心を知るのみ」を残しています。41歳でした。

③大隈重信寄進の燈籠

江藤と同じ佐賀藩出身の大隈重信が寄進した燈籠です。



大隈重信

大隈重信

肥前(佐賀)藩士の出身。佐賀藩の藩校弘道館で学び、蘭学を学ぶため、長崎に出てフルベッキの弟子となります。

維新後、明治新政府の参与で外国事務局判事に就任し、会計官副知事、民部大輔、を経て大蔵省に移り、大久保利通政権で大蔵卿に就任します。

明治14年(1881)の政変が起こり、薩長藩閥勢力と衝突して下野する。翌年7月、立憲改進黨を創設し、党首となります。同年10月に、後の早稲田大学となる東京専門学校を創設します。

明治29年(1896)、進歩党を結成。明治31年(1898)、板垣退助と憲政党を結成し、6月30日、第8代内閣総理大臣に就任。第1次大隈内閣を組閣。

第2次大隈内閣は、大正3年(1914)4月16日に組閣され、第17代内閣総理大臣を務めています。

④大木喬任寄進の燈籠

明治10年(1877)2月に大木喬任が寄進した燈籠です。



大木喬任

大木喬任

天保3年(1832)3月23日に生まれます。佐賀藩の藩校弘道館に学び、勤王派として藩政改革を推進します。維新後は新政府に出仕し、徴士、参与、軍務官判事、東京府知事などを務めました。明治4年(1871)文部卿となり学制を制定します。同6年(1873)参議兼司法卿に就任。萩の乱、神風連の乱で反乱士族の処分にあたりました。明治13年(1880)元老院議長。また民法編纂総裁として法典編纂に関わります。同17年(1884)伯爵。同21年(1888)から枢密顧問官を兼任し、翌年枢密院議長となりました。第1次山県内閣の司法相、第1次松方内閣の文相を歴任しています。明治32年(1899)6月26日、68歳でこの世を去りました。

35 伊藤博文銅像跡／湊川神社

神戸市中央区多聞通3-1-1

- ▶ 一坂太郎氏の著作「関西の中の防長」によると、湊川神社境内に伊藤博文像があったと紹介されています。湊川神社の宮司であるカキタ氏にお伺いしましたら、現在の拝殿の東側、ちょうど祈禱殿の前ぐらいにあったそうです。銅像が建てられたのは明治37年(1904)、等身大より少し大きめの銅像でした。翌年の9月5日、日露戦争後のポーツマス条約が結ばれましたが、戦勝国である日本が良い条件で結ばれておらず民衆は憤慨します。同月の7日湊川神社前で演説が行われ、興奮した民衆は境内に殺到し、伊藤博文の銅像を引き倒してしまいました。境内には再び銅像が建てられず、存在したのは2年もなかったということになります。その時倒された銅像は、後に昭和5年(1930)、山口県萩市のいとう旧宅の庭に移されました。しかし今度は、金属の供出により再び姿を消します。



伊藤博文像があった場所

36 楠木正成墓／湊川神社

神戸市中央区多聞通3-1-1

- ▶ 楠木正成の墓所が記録に現れるのは、豊臣秀吉の時代で、それ以前は憚られたと思われます。江戸時代になり、墓所の地は尼崎藩の管轄となりました。尼崎藩主 青山幸利の頃、墓所に五輪塔が建てられました。その後、徳川光圀によって本格的な墓碑の建立を進めます。光圀は、若い頃に『伯夷伝』を読んで衝撃的な感銘を受け、日本の史書編纂を志し『大日本史』の編纂に着手しました。儒学に基づく尊皇思想と史書編纂の考証を通して、足利幕府が擁立した北朝ではなく、南朝を皇統の正統とする史論に至りました。『太平記』によって英雄化された楠木正成はその一番の忠臣として挙げられました。光圀は楠木正成の顕彰のための建碑を思いつきます。墓碑創建の実現に光圀のほか、光圀の家臣 佐々介三郎宗淳(水戸黄門の「助さん」のモデルとして知られる)と、広厳寺の僧侶の千巖が実現に努力をしました。墓碑の表には「嗚呼忠臣楠子之墓」と光圀の文字で彫られています。



楠木正成

永仁2年(1294)、河内の千早赤阪村にある水分で生まれたといわれています。
 正成が生まれたころ、140年あまり続いた鎌倉幕府は衰え、秩序が乱れていました。
 そのなかで、政治を武士から天皇に戻そうという気運が高まっていました。
 大きく時代が変わろうとしているときでした。元弘の変で後醍醐天皇の挙兵を聞くと、正成はその傘下に入り、元徳3年(1331)、後醍醐天皇の皇子護良親王とあわせて、鎌倉幕府に 対抗するため、下赤坂城で兵を挙げました。
 元弘3年(1333)には、千早城に100日間籠城し、鎌倉勢を釘付けにしました。
 この間に、新田義貞(1301~38)らが鎌倉へ攻め込み、鎌倉幕府は滅亡しました。
 このことから、後醍醐天皇は鎌倉幕府を滅亡に導いた功労者として、正成を従五位下檢非違使に任命しました。
 後醍醐天皇による建武の新政がはじまると、正成は記録所寄人、雑訴決断所奉行人、河内・和泉の守護となりました。建武2年(1335)、中先代の乱が起り、討伐に向かった尊氏がそのまま離反します。尊氏追討の命を受けた義貞は箱根・竹ノ下の戦いに敗北します。足利軍はその勢いで京へ迫りますが、正成らは、北畠顕家らと連絡して足利方を京より駆逐することに成功します。
 翌年、九州で軍勢を整えて再び京都へ迫ると、正成は後醍醐天皇に「新田義貞を切り捨てて、尊氏と和睦するよう」進言しましたが、後醍醐天皇は献策を受け入れませんでした。
 建武3年/延元元年(1336)、正成は、新田義貞の旗下での出陣を命じられます。
 湊川の戦いで足利直義の軍と戦い敗れて戦死、弟の楠木正季と刺し違えました。
 江戸時代後期には尊皇派によって頻繁に祭祀されるようになり、湊川神社の創建や靖国神社などの招魂社成立に大きな影響を与えることとなりました。
 明治になり南北朝正閏論を経て南朝が正統であるとされると、「大楠公」と呼ばれ、講談などでは『三国志演義』の諸葛孔明の天才軍師的イメージと重ねて語られました。



湊川公園(旧湊川跡)にある楠木正成像と説明の碑



観心寺(大阪府河内長野市寺元)にある楠木正成像と説明の碑



桜井の駅跡の史跡公園(大阪府三島郡島本町桜井)にある楠木父子の像